

科学・環境

✉kagaku@asahi.com
火曜掲載

信頼への道 原子力規制委10年

原子力規制委員会が発足して10年。これまで規制委が果たしてきた役割や今後の課題などについて、初代委員長の田中俊一(77)と、まもなく退任する現委員長の更田豊志氏(65)にそれぞれ聞いた。

「規制委は当初の狙い通りの姿になりましたか。『発足は原発事故の翌年で、当時は原子力に対する社会の信頼がゼロでした。どうか安全規制の信頼を取り戻すか。そこで打ち出したのが透明性です。審査会合をオープンにして中身をさらけ出した。今では信頼はある程度、得られたんじゃないでしょうか。でも、推進側が全然ダメですね』

「どこがダメですか。『原子力の利用について国民は納得していませんよね。日本でどうして原子力エネルギーが要るのか、国民に考えてもらふ必要があるわけですよ。特に、温暖化とロシアの(ウクライナ侵攻に伴うエネルギー危機)の問題がある今は、議論する絶好のチャンス。それなのに、政治家も行政も、きちんと議論をやらさうという人がいません』

「電力不足だから審査を迅速化しろと言っけど、規制委が許可した原発17基のうち7基は再稼働していま

せん。まず、それを動かせる間に合うはず。規制委が許可したって原発は動かさへん。社会が受け入れられるような議論を政治がやっていないからです」

「規制委員長を5年間務めました。政治的なプレッシャーはありましたか。『プレッシャーはない。きつと感じたことはない、1回も』

「そんなもの、聞き流しておけばいいじゃないですか。必要な審査はやらなければいけないですよ。規制委の審査はフルオープン

している部分があります。常に安全対策と便益をはかりにかけなきゃいけない立場にいるわけなので、電力の意思決定者の難しさがあると思ってます」

「ただ、どの国でも事業者は強い規制当局を必要とします。規制が信用されなくなったら原子力の利用なんて成立しないから。あれだけ厳しい規制当局に見張られていて、そこから許可を得ている私たちが事業なんだから理解をくださいというやり方をとります。けれど、規制の役割が、どのくらい理解されているのか疑問に思う時もある部分があります。常に安全対策と便益をはかりにかけなきゃいけない立場にいるわけなので、電力の意思決定者の難しさがあると思ってます」

現委員長

更田豊志さん



ふけた・とよし 1957年生まれ。87年、東工大大学院博士課程修了、日本原子力研究所。2012年9月、原子力規制委員長に就任。14年9月から委員長代理、17年9月まで委員長を務めている。

利用を進めても厳正さは維持する 要求下げない

今後の動きをよくよく見て 変にならないように

「原子力の安全神話は、なくなりませんでしたか。『あるんじゃないですか。規制が厳しすぎるとか、いろいろ言う人の裏には、そういうものがあるんじゃないの』

「もう安心だから、厳しくやる必要はないだろうという考えがある。『そういうことでしょ』

「規制委は原子炉を止めるところじゃないんです。止めるなら規制なんか要らない。原発を利用する上で大きな事故を起こさないよ

う。でも、技術というのは、必ず事故やトラブルが起るもの。事故を拡大させない、どの程度までに抑えるか、という考え方が大事ですが、日本は無謬性を求めすぎます。それで『安全だ、安全だ』と言わざるをえなくなって、安全神話の落とし穴にはまってしま

「ただ、主に出された計画や指示は推進側に向けたものであって、規制当局に出されたものがあるわけではないです。安全を大前提として。それは厳正な規制を維持するということであって、私たちが要求レベルを引き下げようとしているわけでは全くありませんし、そう言われているとも思っていないです」

「ただ、主に出された計画や指示は推進側に向けたものであって、規制当局に出されたものがあるわけではないです。安全を大前提として。それは厳正な規制を維持するということであって、私たちが要求レベルを引き下げようとしているわけでは全くありませんし、そう言われているとも思っていないです」

「この10年で達成できなかった点、できなかった点は。『職員の姿勢は大きく変わったと思います。上下関係にとられず意見が言えるようになってきた』

「一方で委員会の中での議論は活性化されたとは言えない部分がある。たとえばある委員が別の委員に対して異論を投げかけるとか、反論するというのは、もっとうちがっていい。その分野を得意とする委員が発言してしまつと、ほかの委員はあまり反論しないというふうな雰囲気がまだあるのはちょっと残念。(山中伸介)新委員長は非常に柔軟な人なので、活性化するかもしれないと期待しています」

「その根は決して消えないですよ。規制の厳になる危険性というのは、常に転がっているんだと思います。だからやっぱり、注意を続けることはすごく重要だと感じます」

「特に福島県には関わり続けたいと思っています。私は分野が原子炉工学ですから、廃炉にできれば関わりたいと思います。今後は廃棄物の管理がポイントになってくるので、これはなかなか東電だけで発信するのが難しいところはあると思いますので、何かができればと思います」

安全は「絶対」か

「原子力の安全神話は、なくなりませんでしたか。『あるんじゃないですか。規制が厳しすぎるとか、いろいろ言う人の裏には、そういうものがあるんじゃないの』

「もう安心だから、厳しくやる必要はないだろうという考えがある。『そういうことでしょ』

「この10年で達成できなかった点、できなかった点は。『職員の姿勢は大きく変わったと思います。上下関係にとられず意見が言えるようになってきた』

「一方で委員会の中での議論は活性化されたとは言えない部分がある。たとえばある委員が別の委員に対して異論を投げかけるとか、反論するというのは、もっとうちがっていい。その分野を得意とする委員が発言してしまつと、ほかの委員はあまり反論しないというふうな雰囲気がまだあるのはちょっと残念。(山中伸介)新委員長は非常に柔軟な人なので、活性化するかもしれないと期待しています」

「その根は決して消えないですよ。規制の厳になる危険性というのは、常に転がっているんだと思います。だからやっぱり、注意を続けることはすごく重要だと感じます」

「特に福島県には関わり続けたいと思っています。私は分野が原子炉工学ですから、廃炉にできれば関わりたいと思います。今後は廃棄物の管理がポイントになってくるので、これはなかなか東電だけで発信するのが難しいところはあると思いますので、何かができればと思います」

「原子力の安全神話は、なくなりませんでしたか。『あるんじゃないですか。規制が厳しすぎるとか、いろいろ言う人の裏には、そういうものがあるんじゃないの』

「もう安心だから、厳しくやる必要はないだろうという考えがある。『そういうことでしょ』

「規制委は原子炉を止めるところじゃないんです。止めるなら規制なんか要らない。原発を利用する上で大きな事故を起こさないよ

「この10年で達成できなかった点、できなかった点は。『職員の姿勢は大きく変わったと思います。上下関係にとられず意見が言えるようになってきた』

「一方で委員会の中での議論は活性化されたとは言えない部分がある。たとえばある委員が別の委員に対して異論を投げかけるとか、反論するというのは、もっとうちがっていい。その分野を得意とする委員が発言してしまつと、ほかの委員はあまり反論しないというふうな雰囲気がまだあるのはちょっと残念。(山中伸介)新委員長は非常に柔軟な人なので、活性化するかもしれないと期待しています」

「その根は決して消えないですよ。規制の厳になる危険性というのは、常に転がっているんだと思います。だからやっぱり、注意を続けることはすごく重要だと感じます」

「特に福島県には関わり続けたいと思っています。私は分野が原子炉工学ですから、廃炉にできれば関わりたいと思います。今後は廃棄物の管理がポイントになってくるので、これはなかなか東電だけで発信するのが難しいところはあると思いますので、何かができればと思います」

「原子力の安全神話は、なくなりませんでしたか。『あるんじゃないですか。規制が厳しすぎるとか、いろいろ言う人の裏には、そういうものがあるんじゃないの』

「もう安心だから、厳しくやる必要はないだろうという考えがある。『そういうことでしょ』

「規制委は原子炉を止めるところじゃないんです。止めるなら規制なんか要らない。原発を利用する上で大きな事故を起こさないよ

安全は「絶対」か

「原子力の安全神話は、なくなりませんでしたか。『あるんじゃないですか。規制が厳しすぎるとか、いろいろ言う人の裏には、そういうものがあるんじゃないの』

「もう安心だから、厳しくやる必要はないだろうという考えがある。『そういうことでしょ』

「うたて」ナマス 4499
「固有種」は16種いるよ。中でもヒコオオナマスは最大で全長120センチにもなるんだ。